

第3学年 国語科学習指導案

研究テーマ

言葉にこだわって作品と向き合い、自分の考えを創り上げていく子どもの育成

単元を通して育成したい子どもの姿

言葉に着目して、意味や表現、言葉を用いた作者の意図などを考えながら自ら読み深める姿

1 単元名 「5自らの考えを 初恋」

2 単元の目標

- (1) 話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 「知識及び技能」
- (2) 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

本単元は、韻文を題材とした「読むこと」の単元である。韻文はその他の文学的文章に比べて語句の情報量が少なく、作品の解釈は読み手に委ねられる部分が多い。しかし、その語句や表現は作者によって意図的に精選されているため、言葉による見方・考え方を働かせ、思考力や想像力を養うための教材として適した単元である。

3年1組の生徒は、国語の授業に対してたいへん意欲的である。教師の発問に対しての反応も良く、話し合い活動においても、課題に対して自分の考えをもち、比較しながら課題解決する様子が見られる。しかし、互いに出した考えの良いところをまとめるだけに止まり、比較したり吟味したりするところに至っていない。語句の意味や表現の工夫など、言葉に立ち止まって、さらに読みを深めようという意識をもたせることが課題である。また、友達の考えから気づきを得たり、学習内容を他教科や実生活に活かそうとしたりと、自己の変容を見つめる振り返りが不十分である。

本時では、島崎藤村自身が改変した「初恋」を提示し、前時まで読み味わってきた「初恋」との違いを捉えて、どちらがより魅力的に感じるかということを考えさせたい。改変された「初恋」は、第三連が削除され、第四連の最後の「問ひたまふこそこひしけれ」の「こひしけれ」が「うれしけれ」に直されている。この第三連は、「われ」と「君」の距離が急激に近づく印象を与え、第二連までの少年と少女の「初恋」から、成熟した大人の恋を連想させる。藤村は、少年と少女の純粹で清廉な「初恋」を際立たせるため、第三連を削除したとも考えられる。しかし、読み手にとっては、この詩において第三連があった方がよいのか、ない方がよいのかという考えはそれぞれ異なるだろう。生徒たちには、改変前と改変後の詩を読み比べ、自分がよいと感じた詩について、根拠を明らかにしながらその魅力について考えさせたい。

また、藤村は、「初恋」を世に出した後40年ほどの月日を経て、改めて書き直した。著名な文学者であってさえも、自身の作品を振り返り、推敲を繰り返すものなのだと知ることによって、生徒自身が今後作文を書いたりスピーチをしたりする際に生かそうとする意欲をもたせたい。

4 単元計画（全3時間）

時	・学習活動 (目指す子どもの姿)	※評価規準
1	・詩を読み、どのような情景がイメージできるか考える。	※詩の基礎的な知識や文語の表現などについて理解している。[知識・技能] ※詩からイメージできる情景について考えている。[思考・判断・表現] ※七五調のリズムを感じながら、読み味わおうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]
2	・詩の構成をもとに、「初恋」は成就したかを考える。	※語句の意味や表現の工夫、詩の構成の特徴を理解している。[知識・技能] ※語句や表現に着目し、「われ」と「君」の関係性の変化を読み取っている。[思考・判断・表現] ※根拠を明らかにしながら、自分の考えを積極的に相手に伝えたり、書いてまとめたりしようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]
3	・作者が詩を書き改めたのはなぜかを考える。	※改変前の詩との違いを整理し、詩を書き直した作者の意図を考えている。[思考・判断・表現]
4 本時	・改変前と改変後の詩を読み比べ、どちらの詩のどのようところに魅力やよさを感じるかを考える。	※語句や表現、構成などをもとにそれぞれの特性を明らかにしながら、作品の魅力やよさについて考えている [思考・判断・表現] ※根拠を明らかにしながら、自分の考えを積極的に相手に伝えたり、書いてまとめたりしようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

5 本時の研究の視点

【視点1】言葉に対する興味・関心をかき立てる課題設定の工夫

○ 改変前と改変後の2つの詩を提示することで、語句や表現の違いに対する興味・関心を高めさせる。

【視点2】自他の考えを比較させるための共有場面の設定

○ 自他の考えを比較・検討することにより、再構築させる。

【視点3】自らの学習状況を把握させ、次の学びにつなげる振り返りの工夫

○ 自己の変容を捉えることで、学びの達成度を振り返らせる。

6 本時で働かせる見方・考え方

○ 作者によって書き改められた詩を読み比べ、違いに着目することで、それぞれの特性を捉える。

7 本時のねらい

改変前と改変後の詩を読み比べ、語句や表現、構成などをもとにそれぞれの特性を明らかにしながら、作品の魅力やよさについて考えることができる。

8 学習過程 (3 / 3)

段階	学習内容・活動 (予想される子どもの反応)	時間	◇教師の支援 ※評価
導入	1 詩を音読し、前時の学習を振り返る。	5 一斉	◇ 前時の振り返りシートを紹介し、「初恋」の解釈について確認する。
	2 本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">改変前と改変後の詩を比べると、どちらの詩のどのようところに魅力やよさを感じるだろう。</div>	3 一斉	◇ 前時に、島崎藤村が改変した「初恋」を提示し、最初の印象としてどちらの詩が良いと思うかを考える課題を出しておき、どのように考えたかを挙手させる。(視点1)
展開	3 改変前と改変後の違いを比較し、それぞれの特性を考える。 (1) 第三連がある場合とない場合、「こひしけれ」の場合と「うれしけれ」の場合でどのような印象の違いがあるかを考える。 ○ 第三連には「恋の盃」という表現があって、大人っぽい。 ○ 「うれしけれ」とすると、ちょっと幼い感じがする。 等 (2) 互いの考えを共有し、深める。 ○ 「うれしけれ」だとなぜ幼い感じがするの？ ○ 「うれしけれ」が恋だとするなら、「いとしけれ」は愛だと思うな。 等 (3) 他のグループの考えについて、質疑応答をしたり、「なるほど」と思ったところを共有したりする。 ○ ▽班さんの「うれしけれ」と「いとしけれ」の捉え方の違いに納得した。等	3 7 個人 (5) 班 (12) 一斉 (5)	◇ 島崎藤村が書き換えたところを確認する。 ◇ 第三連がないこと、「こひしけれ」が「うれしけれ」になっていることで、どのように印象が変わるかを考え、Google jamboardに書き込むよう指示する。 ◇ 机間指導しながら、各グループの話し合いの内容を見取る。 ◇ Google jamboardを活用し、グループの考えをまとめさせる。(視点2) ◇ 他のグループのjamboardを見ながら自分たちの考えと比較させ、疑問に感じることにについて質問させ、質問を受けたグループの代表者に答えさせたり、他のグループの考えで、「なるほど」と思った考えを発表させたりする。
	4 話し合いの内容をもとに、自分はどちらの詩に魅力を感じるかを書いてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">私は改変後の詩の方がよいと思う。 改変後の詩は、第三連が削除されている。第三連には「恋の盃」や「ためいき」が「その髪のかかる」という表現があり、「われ」と「君」の距離がぐっと縮まり、急に大人の恋愛のような印象が変わってしまう感じがした。「初恋」は、林檎のようにみずみずしく甘酸っぱいものだと思うので、第三連を削除し、少年と少女の淡い恋を魅力的に描いている改変後の方がよいと考える。 等</div>	1 5 個人	◇ ワークシートを配布し、Google Jamboardを見ながら考えをまとめさせる。 ◇ どう書いたらいいか悩んでいる生徒に対し、Metamoji 内に書き方の形式のヒントカードを準備する。 ◇ 早めに書き終わった生徒に発表させる。 ◇ どんな言葉や表現に着目したのか、そこからどのようなことを読み取ったのかということを書き記入させ、ICTで共有する。 ※ 自分の選んだ詩について、どのような魅力やよさがあるか、考えをまとめることができる。(観察・ワークシート)
まとめ	5 本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○ 初めは改変前の方がいいと思ったが、話し合いで▽△さんの意見を聞いて、改変後の方がよりりんごのような甘酸っぱい初恋を想像させていいという考えが変わった。 等</div>	5 個人	◇ 振り返りシートに、本時の課題の達成度と、学習活動を通して自分の考えがどのように変わったかを記入させる。 ◇ 記入した振り返りシートを写真に撮り、Metamoji に提出させる。 ◇ 授業で得た知識や学んだ内容、身に付けた力を他教科の学習や日常生活のどのような場面に活かせるかということを考えさせ、「振り返りシート」に記入させる。(視点3)

